

渡基記念



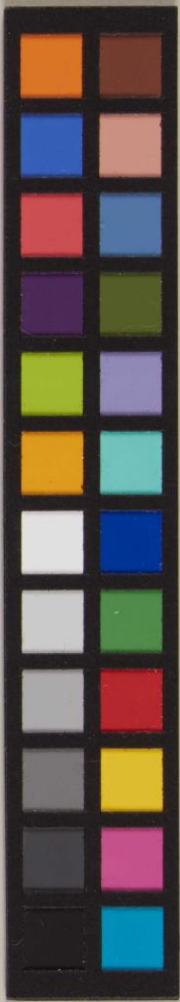
渡基記念



昭和四年九月末より十月に
亘り其間に日本図書館眼
会の眼識会を同僚と共に
参集者の今も古地を巡回し
此小帳に當時出席せる余が
記念集なり

坪谷水哉





倭川楠公研削の櫛葉

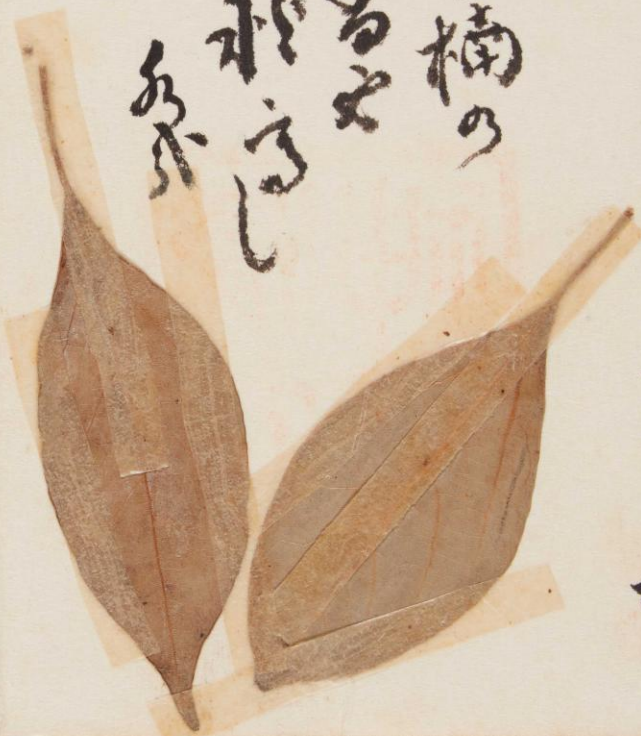
長つに

其の楠の

櫛葉

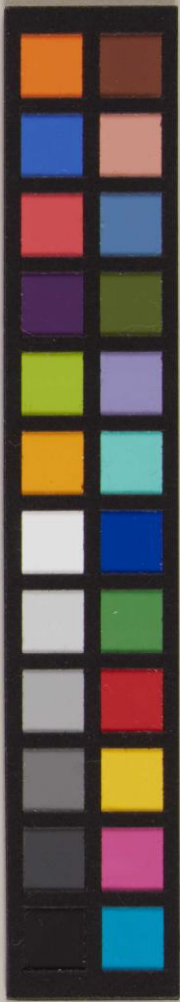
櫛葉

櫛葉



昭和四年九月二十日





赤間宮前の松梅
葉といふ葉楓

櫻の浦に

平家鰐

恨み深し

海の花

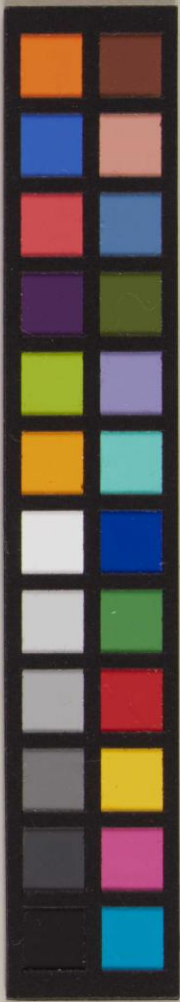
あふ



下関市鐘屋

赤間宮
甲子 丙午





はる

いさ

初め

め

安徳帝の陵

例の机

為松

昭和四年

九月二十五

日

記

記



昭和四年九月二十五日

記

記



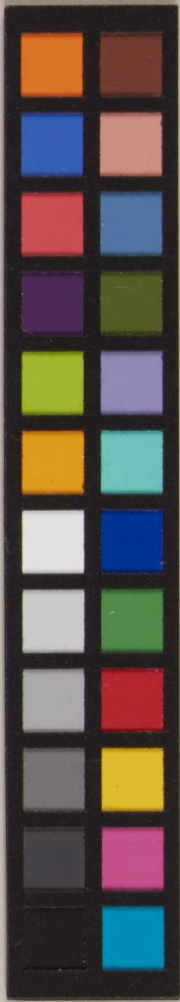
四如月十日



計開各年
如左

下開是山八幡宮





蓬萊丸
乗船記

念

三
正
野
田
林

林
田
丸
記

事務手帳

貞松 欣花

Mammya Injio

江副 糸油

松本 文弥

田丸

池田 菊次郎

誤り
押入
宝具
二五
日基
陰着
一日

着
神戸港
★ 4.9.21 ★
蓬萊丸



吟耕雨讀

人見次郎

芝山

岩の木仏の音芽

同くハの字

昭和四年九月二十八日



其至北市外芝山岩

惠濟宮
文昌廟

寺印



基隆神社の榕樹と落松葉



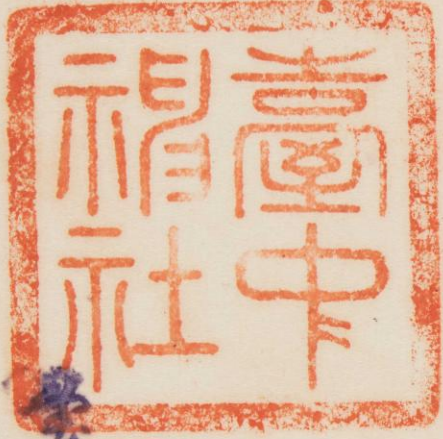
官幣大社基隆神社の印



新竹州立
圖書館



甘室中神社

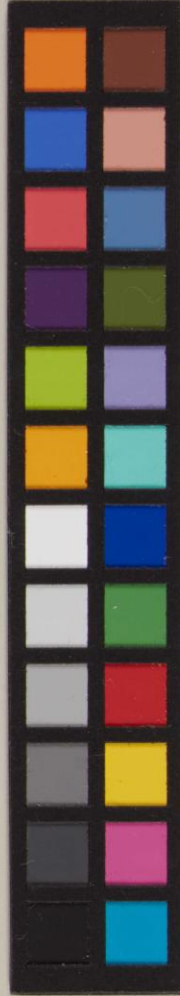


墨本少原
西橋
電話三九番



相思樹ノ葉

北投
無名庵



葉若と花咲返り橋雨務社の緋

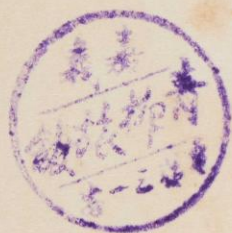


雨務社生蕃部落のフスモス

臺灣嘉義
御旅館

(電話八四七番)

柳



臺南東
屋旅館
竹印

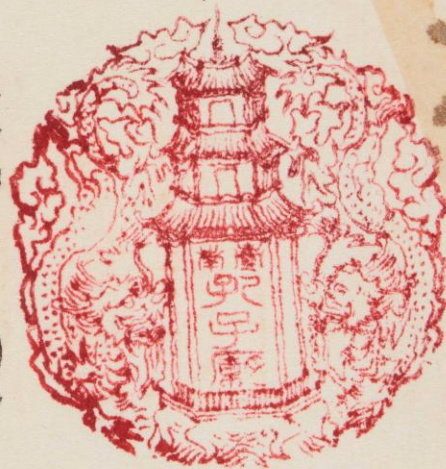
高雄驛前
春田旅館



臺南圖書館

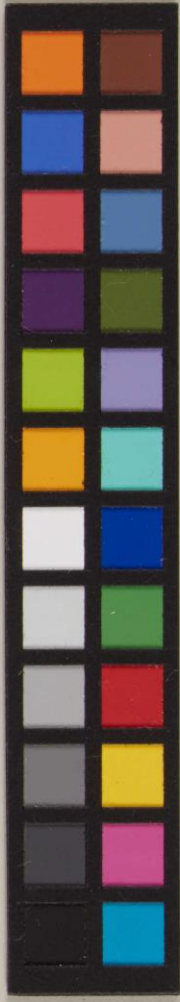


臺南孔子廟印



日月潭畔の羊齒





屏東街

臺灣製糖會社
高雄州農事試驗場
屏東圖書館



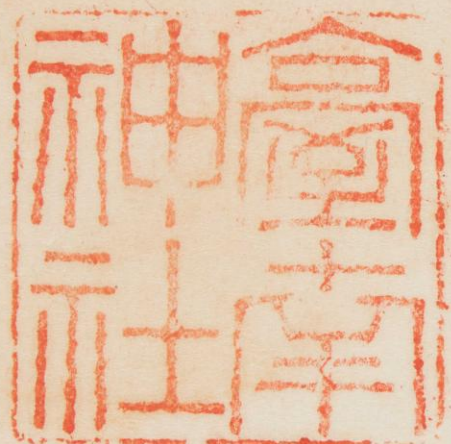
高雄圖書館



高雄市
井昌治

潮州庄
廣田旅館





甘室神社
イロハ

甘室神社境内
ピンボクノ樹ノ葉ニ枚
村田省義君所贈





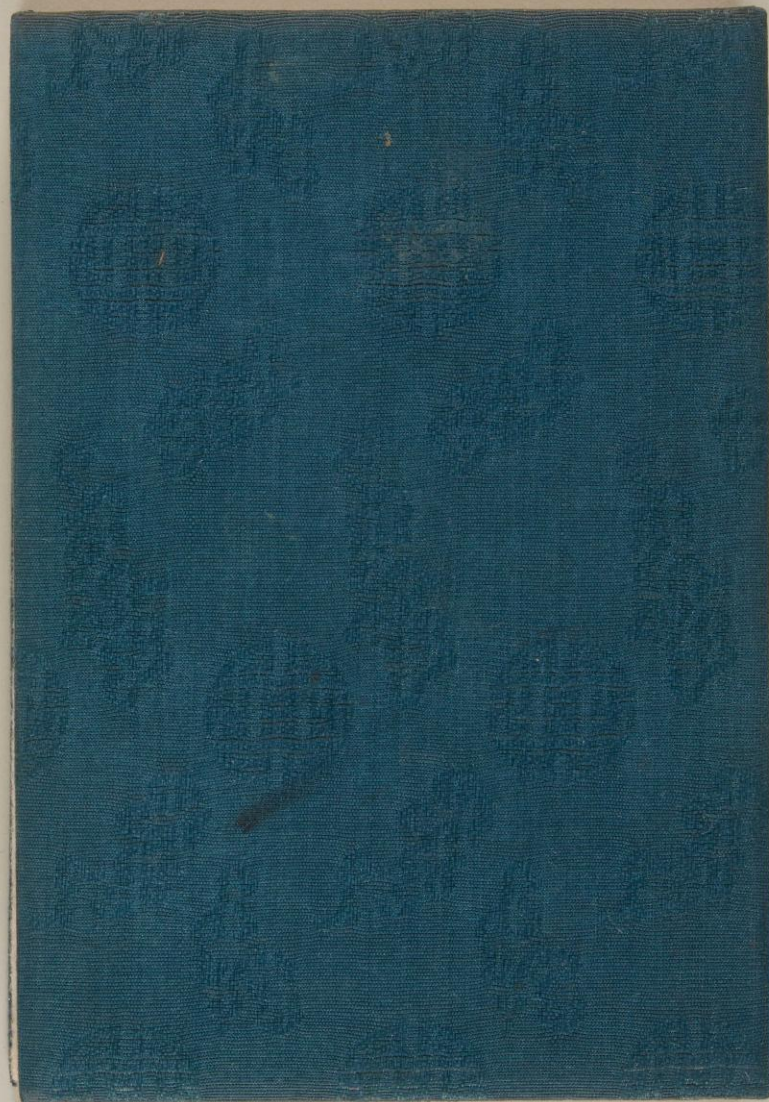
代寫鑒鼻燈臺

四重溪溫泉
公共浴場



開山神社
境内の梅の葉
(其臺南)





臺中州立圖書館印



臺中州立圖書館



康港圖書館藏書印

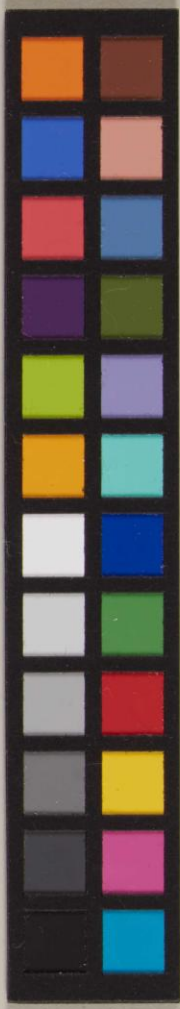


昭和四年十月八日



新竹州立圖書館印





新竹特產通竹制衣品

秋暑去
榕樹
並木の
砂埃
あり



臺灣新竹街新竹西門五虎式番地

臺灣通草拓殖株式會社

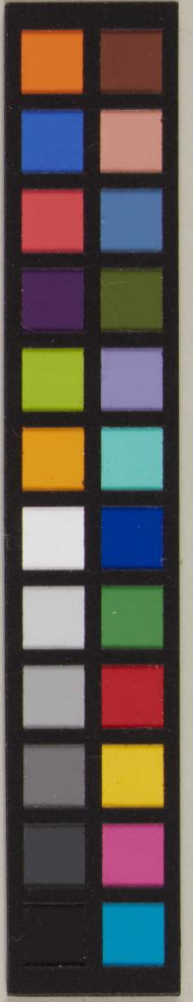


臺灣總督
府圖書館
各種印



山田恒

山中恒



臺灣總督府
圖書館名種
藏書印

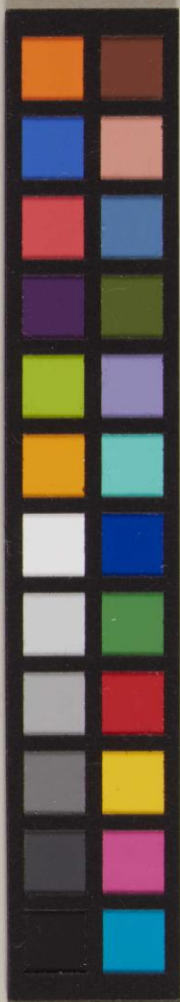


臺灣總督府
留官印榕樹

北投無名廣
庭園
相思樹



臺北市大和河
有通景
一一
（香滿三春）



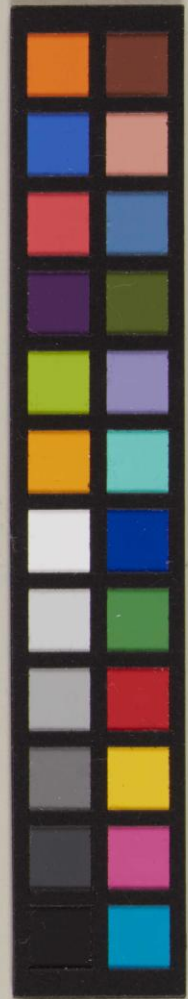
昭和四年十月十三日

瑞穂丸

山根重武
寺坂定藏



村田有吾
柴田齡二



甘藷南神社

法遺蹟

地茨内

パウミツ



日月潭

碧涵樓

庭中の

玉シダ



安平港
ゼーランディアの
印度素馨の
葉と花及夾竹桃の
葉



阿
里山の薄雪桜



霧社の内
民家の
畑の大豆
の葉と
施舎の庭
の竹葉

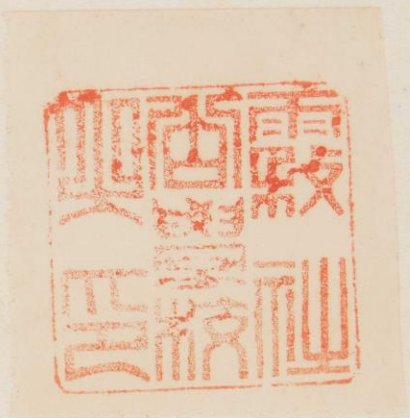


嘉義神社境内の
夕ガヤサシの
葉



昭和四年
十月六日

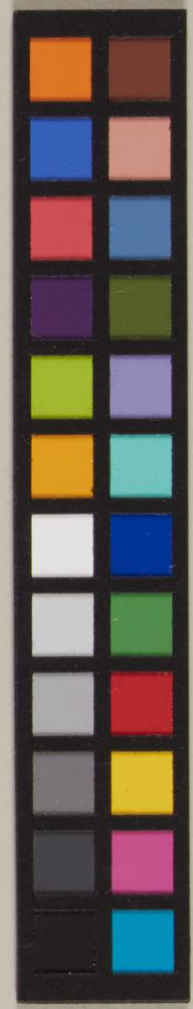






基隆中央の埔里

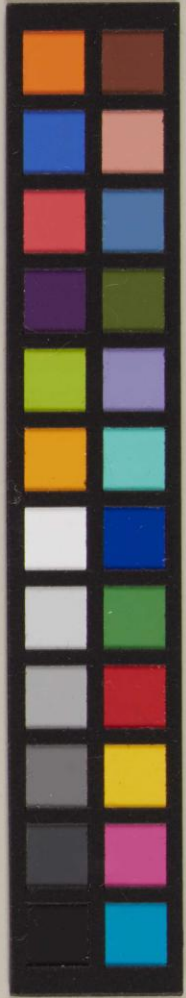
基隆能う即役所を在埔里に
全島中縦横から正に中央
に位する。余新東端
本島中央之碑が立つ。山間の一都
府といふ海抜一五五尺、年中暑熱
を知らず、氣候溫和、我々に知らずと
す様の種類五百餘種の中過半の

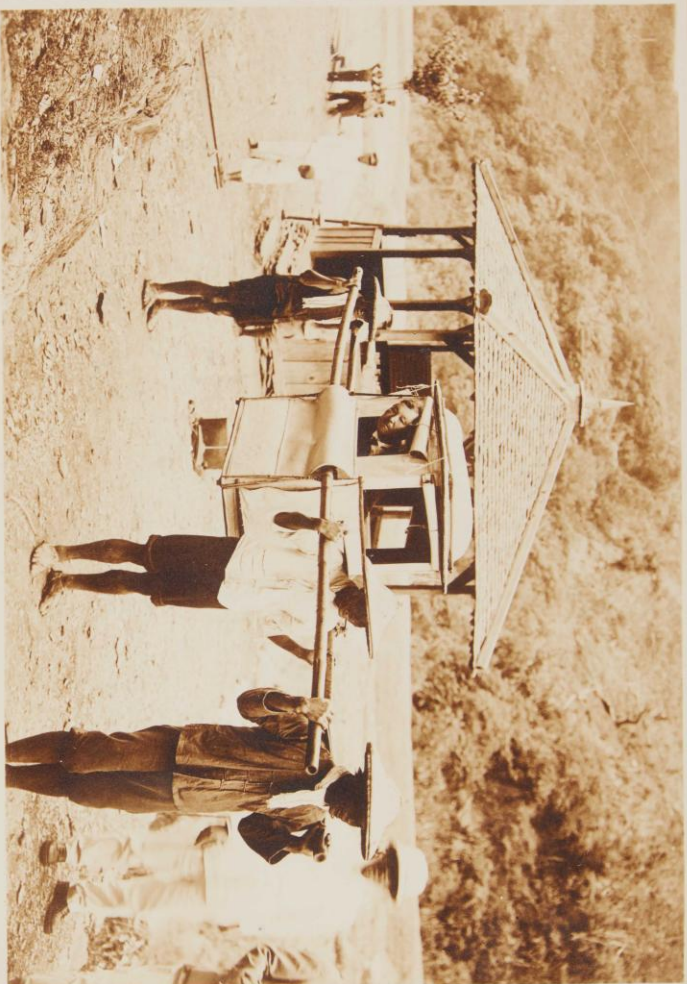


標をい此地に産せり

其地に行くと鐵道龍景橋ニ水駅
あり外車程水裡坑、魚池等の山向
を過ぎて國うむ見せむ益地の
小都府既に蕃界に近く、霧社
の蕃人部落に入ると此所に入
る蕃計り社と要を市街の入口の
後法に臨む的勝景稍々見えべし標
示へ埔里耶馬溪と稱す

埔里より霧社を蕃界の林原より眉溪
まで、以て宜す、其の向の臺車軌道あり、
眉溪に抵りて蕃族討伐の古戦場と
いふ其地に人止之南より、指示あり、
故に官駐在所あり、蕃人の
外の無断に蕃界に入ると禁む、
旧の蕃界討伐の際に、埔里に討
伐軍の屯営あり、霧社
に海抜三千七百八十八尺、梅花に名あり、





昭和四年九月二十日甚重
 甚重男、甚重社に入つて捕
 里、甚重社に入つて捕
 軌道の沿流に沿つて通る
 ころ、甚重の子押草車
 と運ぶ、其邊に來つて、甚重
 に至ると、軌道を、此所より
 需路社まで、甚重一里、甚重
 妙法寺、甚重を用意、甚重
 邊に來つて、甚重の眞
 引、甚重の眞、甚重の眞
 余、甚重の眞、甚重の眞
 人の甚重の眞、甚重の眞
 妙法寺、甚重の眞、甚重の眞

